

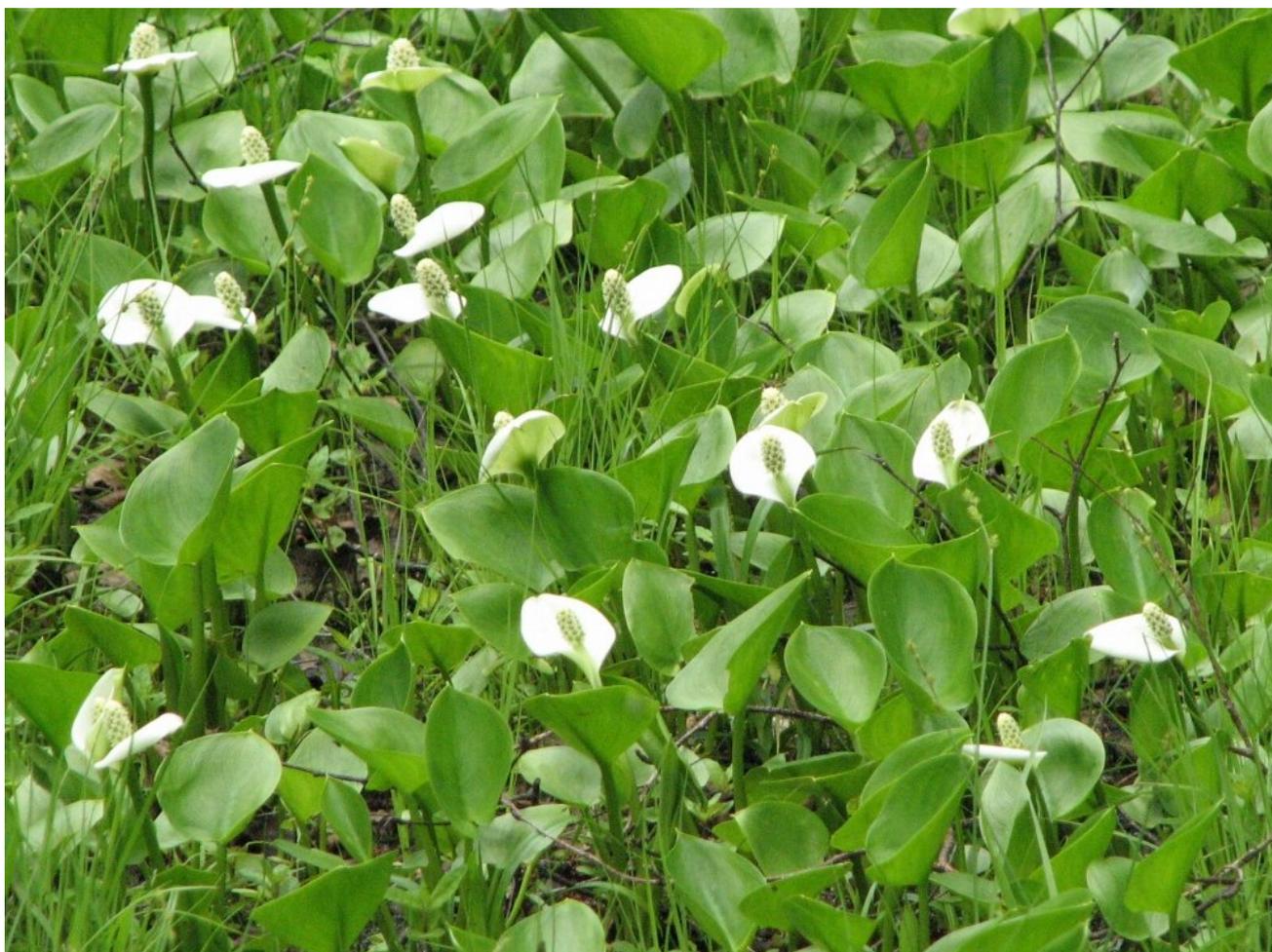
# グリーンニュース 第36号

発行年月日 平成 20年 6月 30日  
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

## 行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



(武尊山麓のヒメカイウ)

環境政策課からのお知らせ (2ページ)

マンガ・アニメ文化 発祥の国 日本 (3ページ)

【専門部会】

高山村の共有林での作業と菜の花摘み (4ページ)

ジュースは毒か?・2008年前期の活動について報告 (5ページ)

【地域活動】

ごみの不法投棄について一考察・次世代エネルギーパーク構想始まる (6ページ)

温暖化防止とアドバイザー・地球温暖化防止活動について (7ページ)

広報ア・ラ・カルト (8ページ)

## 群馬県環境アドバイザー 登録者315名に！(H20.5.30現在)

今年度は第7期(H19.4.1～H21.3.31)の2年目に当たります。昨年5月以降、およそ80名の方に新たに申請をいただき、今年5月30日現在で315名の方にご登録いただいております。

なお、それ以降にも申請をいただいております、今後も随時登録手続きを進めて参ります。

登録期間中、ぜひ自発的に地域等での環境保全活動を続けていただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 環境サポートセンターをぜひご利用ください！



県では、環境学習や環境保全活動の総合的な窓口として、環境サポートセンター(〒371-0016前橋市城東町2-3-8, 赤城県道沿い前橋市営城東パーキング1階)を設置しています。環境に関する質問や相談をお受けするほか、各種環境学習資料の提供や図書・ビデオ・DVDの貸出し等もおこなっております。ご利用は無料ですので、ぜひお気軽にご相談ください。城東パーキングも無料でご利用いただけます。

なお、群馬県地球温暖化防止活動推進センターも同じフロア内にありますので、ぜひお立ち寄りください。

また、この6月から移動環境学習車「エコムーブ号」(天然ガス車)が、環境サポートセンターの近くへ引っ越しました。まだエコムーブ号をご覧になったことがない方は、ぜひ環境サポートセンターへ

足を運んだ際に、実物を見学していただければと思います。

エコムーブ号が出動する「動く環境教室」へのお申し込みも

待ちしています。問い合わせ先:環境サポートセンター

(平日 9:00～17:30)

TEL: 027-232-9045

FAX: 027-232-9046

E-Mail: gunma-esc@dan.wind.ne.jp



エ  
お

### 4月からのニューフェイスです！

この4月から、次長(地球温暖化担当)と環境アドバイザー担当者が交代しましたのでお知らせします。

根岸次長:県庁の誇る“ミスター産廃”。環境問題のプロフェッショナルです！

北角主任:環境の知識は、みなさんに追いつくようにゼロから勉強中です。でも、お天気に関する

ことはお任せください！一応(笑)気象予報士です。

また、自他共に認める“ミスター温暖化”こと山崎補佐は、引き続き地球環境係長として担当します。このメンバーで1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

# マンガ・アニメ文化 発祥の国 日本

## 若者達に大人気

この5月初め、ドイツ旅行中カールスルーエの本屋さんに入って驚きました。棚に日本のマンガ本『NARUTO』とか『SAKURA WAR』などがずらりと並んでいるのです。そしてドイツの少年達がそれらマンガ本を立ち読みしている姿を目にしました。本の内容は日本人作のマンガが、そのままドイツ語に翻訳され、大人気でドイツ国中に配本されているのです。いや聞くとところによると、ヨーロッパ各国でも同様に、日本のマンガは、その国の言葉に翻訳され、若者達に読まれているとのこと。



## 日本への関心度アップ

ドイツのデュッセルドルフにある“日本文化センター職員”の話では、日本語講座の募集の案内をすると、「日本語で直接日本のマンガ読みたい」とか、「マンガで知った“ど根性や勇気”についてもっと学びたい」等を希望する若者達が応募し、すぐ定員になるそうです。そして、是非一度は日本へ行って見たい、と希望すること。改めて私は、文化交流・国際親善の幅の広さを認識し、感動すら覚えました。生活文化とは強制するものではなく、自然発生的に浸透するものと感じたからです。

## 生活文化面での意識改革

一方多くの日本人は、『環境先進国ドイツ』という言葉やその施策のイメージについては勉強し、よく認識しています。しかし具体的な環境面への国民行動となると、生活文化としては総意とはならず、ドイツとの違いを認めざるを得ません。ドイツでは、スーパーにレジ袋はありません。皆マイバッグを持って行きますし、袋の必要な人は、レジの近くにある袋を当たり前として有料で買います。トレーなしも当たり前、ビン類のデポジット制度も全国的なシステムとして既に定着し、化石燃料製品の節約(CO2削減)と共に、ポイ捨てのカンやビンは街中に見当たらず環境美化にも役立っています。

日本人は、余りにも大量生産・大量消費という経済成長の美味による生活文化に慣らされてしまったのではないかと思われ、環境対策として我慢を強いる生活様式面での意識改革は、時間のかかる問題だ、と改めて感じました。

(連絡協議会代表 鈴木 克彬)

# 高山村の共有林での作業と菜の花摘み

・・・楽しかったよ！・・・

昨年9月蒔いた菜の花の蕾も膨らみ日当りの良い所は開花が始まりましたとの一報が高山村から届きました。そこで急遽、温暖化エネルギー一部会との共同で下記の催しを実施致しました。

日 時:4月26日 参加者 14名 地元参加者 4名 合計 18名

## 1.共有林での作業

少々の霧の中で、地元の方々が以前に植えられたクリ、オオヤマザクラ、ミズナラ等、2m～3m位に成長した木々の周辺にあるクズの蔓を払う。地元の大木さんに指導して頂き、比較的安全な作業を楽しみながら行った。欲を言えば、晴れていれば四方の景色を見渡ながらとならなかったのが残念だった。しかし、森林作業の良い経験ができ全員生き生きとした笑い声が弾んだ。お昼になりみんなで昼食をとった。

## 2.菜の花摘み

種蒔きから7ヶ月、菜の花はこの地域では都市部と約2～3週遅れて、ようやく開花ははじめたところで、畑の半分は未だ蕾をふくらました程度で、ちょうど良い摘み菜の時期だった。脇芽を出すため太そうな水々とした若芽をポリ袋にたっぷり摘んだ。この畑は無農薬ですよと大木さんの声……、その場で口の中に入れた。「おいし——い」誰かがさげんだ。農業の楽しさを味わって14時30分、地元の方々と再会を誓い高山村を後にした。



ご苦労さまでした♪

(自然環境部会 宮崎 亮二)

# ジュースは毒か？

(動く環境教室でのQ&A)



エコムーブ号での環境教室の締めくくり時に生徒から感想や質問を受けるのを通例としていますがその折、小学4年生から“飲み水の COD はどの位なら良いのですか？”との問いがあり、「水の汚れをパックテスト(COD)で調べよう」のテーマ実験の担当者がそれに対し、以下の内容を生徒が理解し易い言葉で応えました。

＜飲み水の適否は COD の値よりも細菌(大腸菌等)や有害物質(シアンや重金属等)の含有率を重視します。COD 値も無論、小さいほうが良い、ゼロが望ましい＞。

さすがにベテランの当を得た回答は素晴らしいものです。しかし、後段の COD ゼロには問題点が残ります。と云うのは以前、私が水をテーマの実験を行なった際、一人の男の子が“やはりジュースは良くないのか”と呟きながらその場を去ろうとしたことがありました。

COD のパックテストでは生活排水に関わる洗濯水や味噌汁、ジュース等の希釈液の COD 測定をし、河川の汚濁、魚等の生息への関与を話しますが、COD (化学的酸素要求量) そのものの説明を省いてしまいます。その為、「ジュースは良くない」とした男の子は多分、日頃、親等から清涼飲料の飲みすぎは身体に良くないと言われていたことと、川(水中)の酸素量の減少による生物の死滅とを混同してしまったのです。空气中の酸素を呼吸する生物と水棲生物に対する COD の意義を理解してエコムーブ号に関わりましょう。

(広報部会 野村 武彦)

## 2008年前期の活動について報告

(1) あさがおやゴーヤを建物や窓辺に這わせ、室内の温度を下げるというグリーンカーテンが、県内でも館林市や前橋市の小中学校を中心に広まってきました。これをさらに一般家庭にも広めようと、部会では、昨年10月「種子を分けて下さい」という募集をしたところ、3kg強集まりました。協力いただいた方々どうもありがとうございました。これを小袋に入れ都市緑化フェアで配布？などという構想もあったのですが、なかなか費用や手間を考えると困難ということで、アースデイ等のイベントなどでの配布に留まりました。来期も継続したいと思いますので協力できる方を募集しています。

(2) 昨年、玉村町で「広めよう“菜の花プロジェクト”in ぐんま」を開催し、今後継続していこうとのことで、今年は名称を「菜の花サミット in ぐんま」にかえ、北毛を中心に実行委員会を組む、5月11日、猿ヶ京「まんてん星の湯」を会場に実施しました。当日は猿ヶ京ネットワークの「菜の花まつり」とのタイアップで、午前は菜の花の鑑賞や BDF 車の試乗体験、午後は菜の花サミットで団体発表や今後の活動を進めるための話し合いをしました。

(3) 3月の部会で吉川さんを講師に小水力発電の勉強会を開き、今年度のテーマとして「小水力発電」を取り組んでいくことを確認しました。さらには本年度の地域環境学習にも応募し、11月8日に現地見学会、シンポジウムを計画しています。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

# ごみの不法投棄についての一考察

～発生源から断つための対策は～

ごみの不法投棄はごみの減量化以前の根深い問題として取り上げて対策を講じていく必要があると日頃から思っている。

一般的にみて各家庭等からでるごみの絶対量に較べる、とその量は僅かではあるが、一部の不心得者の違反行為の結果、多くの善良者が迷惑を被り、不快な思いをすることにもなり、誠に遺憾であると思う。因に、違反行為をする者のその時の心理状態を推理追求したとしたら、概ね次の如く区分されると想像され、又対応策もそれぞれ異なるものと思う。

- ① 無意識のうちに違反を繰り返す者……罪悪感を持たないで違反する。
- ② 意識はありながら違反する者……程度の差はあれ、後ろめたさを持ちつつ違反する。
- ③ 意識はあり且つごみ処理の一手段として違反を繰り返す者……確信違反。

上記の対応としては、①②項は指導や注意の喚起等により改善の余地はあるが、③項は取締強化、罰則の適用等の措置で対処するしかないと思慮する。

私は環境学習教育[エコムーブ号]の中で、ごみの関係を担当することが多く、いつも学習の終わりに際して参加生徒達へ次のことを必ず伝えている。「ごみのポイ捨てについて皆さんにお願いがあります。捨ててあるごみを拾わないのは止むを得ないとしても、捨てる側の人間には絶対にならないでください」と。

参考までに私が住んでいる高崎の井野川中流域に於ける私のごみの回収活動について、過去5年間(平成15年～19年)の回収作業結果は以下の通りである。

- ・月間平均の作業状況 21回の出動 48H(1回当たり2、3H)
- ・年間平均の回収ごみの総量 390袋(1袋は45リットル入りのもの)

(高崎地区書記 中澤 章)

## 次世代エネルギーパーク構想始まる

太田市広報5月1日号に表題の記事が掲載されました。

設置場所は第25回全国都市緑化ぐんまフェア、太田サテライト会場、100万本の芝桜会場をそのまま利用することになりそうです。

太田市では「NEDO」による集中連系太陽光発電システムを設置した世界最大規模の太陽光発電住宅団地となり設置件数553戸・出力212900kW、CO<sub>2</sub>削減量783475トンとなっております。

- ① 環境省の補助事業である環境と経済の好循環のまち、モデル事業、まほろば事業の採択を受け、地球温暖化対策としてCO<sub>2</sub>削減に取り組み、年間1000トンのCO<sub>2</sub>削減と約350万円の経済削減を達成した。
- ② 又、平成18年度には「地球の未来は太田から」を基本理念とする、太田市環境基本計画を策定した。この策定には環境アドバイザー数名が市民委員として参加し、多くの意見を述べている。以上のような結果から次世代エネルギー構想は生まれました。

現在太田市では新エネルギー推進室を設けて構想の肉づけの詳細な検討を行っている段階であり、我々アドバイザーも機会あるごとに構想に係わって行くつもりであります。

大風呂敷を広げましたが、うまく結べるかどうか、期待と不安が交錯しております。

(太田地区書記 天笠 正義)

# 温暖化防止とアドバイザー

現下の環境問題で緊急にして最大の課題は「地球温暖化」とその防止についてであろう。直近の出来事としては、ミャンマーのサイクロン、アメリカでのハリケーンと竜巻、日本近海で5月中に4号台風発生、そして中国四川の巨大地震と一挙に何千人何万人と死んでいく現実がある。地球の内と外で確かに大きな変化が起こりつつある。

異常気象による気流、海流の変化、水不足と乾燥化、生態系の異変、毎年4万種以上の生物が絶滅している。20年後50年後にはこのままでは、もっと決定的な事態が生じる可能性を多くの科学的データが予測している。

その「地球温暖化」の主要な原因と言われているCO<sub>2</sub>について5月23日の気象庁の発表では「07年の大気中CO<sub>2</sub>の平均濃度が観測以来最高になった」とあり、4年後2012年までにCO<sub>2</sub>を1990年比、-6%減らすとした国際的約束は絶望的となっている。

国はこの国際的約束を達成するために“国内法”を整え各都道府県に「温暖化防止推進センター」を指定、さらに県知事による委嘱で「推進員」を配置、国・地方自治体あげて温暖化防止に取り組むこととなった。群馬においても同様、同センターの活動が発足、今年で5年目となり、推進員も一期目10名から今では200名余となっている。

アドバイザーの方で、この推進員に委嘱されている方も相当数おられると思うが(私もその一人ではあるが)もし推進員とアドバイザーがセンターに結集し、500名以上の者が温暖化防止にその力を合わせて行けるとしたら、群馬における成果はより確かなものになると思うのだが。

何か、そのへんの方策はないものだろうか。温暖化防止は今や待った無しです。

(副代表 城田 博巳)

## 地球温暖化防止活動について

私が環境のことに興味を持ったのは、紙パック(牛乳パック等)再利用関連の活動からでした。回収については地域の団体・保育、幼稚園・小、中学校等が対象で、地域も(みどり、桐生、太田、伊勢崎、前橋)市と広範囲で行っていました。

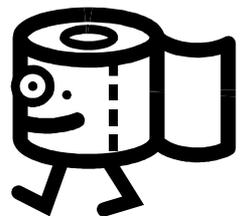
回収時は子供達が秤や計算機を使い総量を出し、トイレトペーパーに代えていました。また時には学校の依頼を受けて、紙パックからトイレトペーパーになるまでの製造過程の話もしました。そのとき生徒達の会話の中に水による洗浄の是非について質問が多く出た。紙パック回収の前に水洗いするが、そのことがエコロジーの負荷を大きくするのではないかと言うことでした。私は紙パックを濯いだ水は花壇に撒くと植物の栄養になると話してきました。多くの学校ではこの水の再利用は充分行われていないようで、それを見た子供達が疑問に思ったのでしょう。

エコロジーについては、水の大切さ、燃料の節約、排気ガスの減少をうたい、リサイクルでは少ない資源の再利用を進めていますが、地球環境への負荷の点からプラス・マイナスを考えると難しい問題だと思います。

廃油回収についてもゴミの減量、水を汚さないなどで行っていますが、回収時の燃料、排気ガスはどうなるのかなどと、考えさせられることが多くあります。

これからの地球温暖化防止活動についても、色々な矛盾点が出てくると思いますので、これらのことを考えながら行動して行きたいと思います。

(みどり市 丸山 芳徳)



## 表紙写真関連

表紙の写真は前号から田中和夫さん(高崎)によるものです。皆さんは水芭蕉では?と思われたのではないのでしょうか。田中さんからのコメントでは「ヒメカイウは水芭蕉を小さくしたような花で同じサトイモ科に属します。関東では稀にしか見られず、武尊山麓の湿原に自生します。貴重な群落ですので有名になると踏み荒らしや盗掘が心配」とのこと。ヒメカイウは群馬県では絶滅危惧種とされています。

生物種の絶滅は現在1年間で4万種以上といわれ、その絶滅スピードは1万年前(百年で1種)、千年前(10年で1種)、百年前(1年で1種)、現在(1日で百種)。人口の爆発的増加パターンと酷似しています。人間の関与で絶滅種を増やさないようにしたいものです。

## カーボンニュートラル

(CarbonNeutral)は環境用語で、直訳すればカーボンは炭素、ニュートラルは中立なので「環境中の炭素循環量に対して中立」となる。例えば、植物のからだ(茎や葉や根など)はすべて有機化合物(炭素原子を構造の基本骨格に持つ化合物)で出来ている。その植物が種から成長する時、光合成により大気中の二酸化炭素の炭素原子を取り込んで有機化合物を作り植物のからだ(茎や葉や根など)を作る。そのため、その植物を燃やして二酸化炭素を発生させても、空気中に排出される二酸化炭素の中の炭素原子はもともと空気中に存在した炭素原子を植物が取り込んだものであるため、大気中の二酸化炭素総量の増減には影響を与えない。そのため、カーボンニュートラル(二酸化炭素=炭素循環量に対して中立である)と呼ばれる。

(原田)

## 議事録について

前回の議事録をしっかりと確認して会合に臨んでほしい旨の通知が自然環境部会長からメンバー宛にありました。専門部会に限らず、幹事会でも会議での決まり事項等を見落とすまたは忘れたまま会に出て来られる方が多くなっているように思われます。

議事録は参加関係者に共有して認識いただく事項の記録です。そこには決定事項等としてそれぞれに課せられた約束事も含まれます。環境アドバイザーはボランティアだから制約・義務的なことには関わらないとするなら会合の場で主張すべきです。このままでは決めごとにより行動するのが一層、少数となり、会合・会議が殆ど無意味なものとなります。同じ仲間のボランティアが貴重な時間を費やして作成の議事録です、会をより有意義にするため、その思いを汲んでしっかりと確認してください。

## ◎会報の原稿をお願い

今回から協議会の幹事の書記の方(6名)にお願いしてきました。まだ、原稿を出されていない方は、次回に載せますので、よろしくお願ひします。

尚:会員の方々から積極的な寄稿も待っています。併せてホームページへの投稿・ご意見をお寄せください。

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記のE-MAIL アドレスに連絡ください。

[gadviser@infoseek.jp](mailto:gadviser@infoseek.jp)

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。